



第25号 編集発行 弘前学院大学 弘前報 印刷所 (有)小野印刷所

一に運動、二に食事、三にシツカリ禁煙、四に薬



学長 吉岡 利忠

この題名は、最近、国民が健康保持・増進のために、厚生労働省から出されたキャッチフレーズです。毎日のように、医療費高騰のことがマス

コミを賑わしていることはご存知のことでしょう。一人ひとりが自分の健康保持・増進に関心を持つようになり、とうとうこの願いが込められてい

もですが、いわゆる第二次予防という範囲に入ります。最近、第一次予防が叫ばれており、これは病気になる前に

「健康あおり21」という施策は、「健康日本21」にならって青森県でも作成され

毎日運動はこのくらいしよう、肥満を減らしましょう、タバコは止めましょう、野菜はこれだけ取りましょ

「弘前学院出身者教職員の会」の設立総会が、7月15日(土)午後5時45分から1号館115教室で開催された。



まず、設立総会に先立って設立準備会が開催され、そこで検討された次の「設立趣旨」が総会で採択された。「弘前学院の卒業生で幼稚園・学校の現場の教職員、かつて教職に携わった方を会員とする。

本多庸一とキリスト教(2)



学校法人弘前学院 理事長・学院長 阿保 邦弘

「最初に、当時の日本における宗教の一般的状況について語るのが便利でしょう。まず、神道―日本固有の宗教―は、祖先や昔の偉人の霊に對する恭順と崇拝に基づきながら、組織的な教義を持ちません。その社殿は清潔簡素で祭神の名を書いた標札のほか、何の視覚的な像のものもありません。ただ、たゞだあるものは清澄と至徳を表す神鏡のみであります。そのたゞずまいは莊嚴で公費を持って維持され、今日のように御札を民衆に与えることもありませんでした。

わたしの若い頃の日本の宗教は、冬眠状態にありました。そのような宗教的状況のもとでわたしたは武士の家に生まれ、教以外になかったのです。この儒教も正しくは宗教というより、道徳教育と呼ぶべきものです。わたしの受けた道徳教育を簡単に言うと、現在も将来も自己を空しくして殿様には忠、両親や師や長上に対しては恭順、而して国家に対しては最善を尽くすことになりました。これは武士階級に

とつて一般的な倫理で、民衆一般にも影響力を持つておりました。わたしが片時も忘れなかつた目標は、家柄と家の誇りを自らの愚行を持って汚すことがなからんとすることでありました。漠然としてはつきりした形はとらなかつたにせよ、暗々裏のうちに天というものを信じていました。そして、先祖や偉人たちの霊の存在について疑うことはありませんでした。少なくとも月に一回は殿様と先祖の墓におまいりするのがならわしでありました。殿様と先祖の墓におまいりするのならば、何か加護を求めらるわめでは、何か敬意を表するためでありました。孔子は道徳の師として、また政治家として、わたしの最高の理想でありました。孔子はわたしの心の中にあって、またわたしの心の中で私を統御する精神的実体を持ちま

い、自己の良心に照らして、真実であり、潔白であり、また真実であるようにと特別な努力を続けたことがありま

「弘前学院出身者教職員の会」の設立総会が、7月15日(土)午後5時45分から1号館115教室で開催された。

生物学、農学基礎、臨床医学、薬学、歯学など9分野があります。健康・生活科学分野には、体力医学、公衆衛生、看護、理学、福祉など専門家で構成され、全体で約45名が含まれています。青森県の大学や研究所から任命された人はいませんでした。任期は、平成23年9月30日までの5年間で、大いに、日本の科学発展のため、そして青森県のその分野、弘前学院大学のために努力されるように期待するものです。

本多庸一の「私の回心」本文の続きを紹介する。「一八六八年(明治元)に王政復古(注)明治維新によって徳川武家政権が廃止され、もとの君主が国策となり、他の列強(注)このころ強大な国々アメリカ、ロシア、フランス、ドイツ)と伍してゆくためには西洋の文化を取り入れる必要が一般的理解するところとなり

語と学問についての知識を得ようとした。これは宣教師団にとっては単に言語と学問についての知識以上に、何物かを教える天与の好機であり、彼らに何よりも先に聖書を与えました。機はまさに熟したのです。多くの若者は迫害を犯してこの新しい教義を受け入れ、そのためにいかなる困難も覚悟しました。

「一八七二年(明治五)三月十日、米宣教師の指導の下に十名の青年たちが最初の新教会を組織しました。ついで、五月の第一日曜日、わた

わたしは、冬眠状態にありました。そのような宗教的状況のもとでわたしたは武士の家に生まれ、教以外になかったのです。この儒教も正しくは宗教というより、道徳教育と呼ぶべきものです。わたしの受けた道徳教育を簡単に言うと、現在も将来も自己を空しくして殿様には忠、両親や師や長上に対しては恭順、而して国家に対しては最善を尽くすことになりました。これは武士階級に

「弘前学院出身者教職員の会」の設立総会が、7月15日(土)午後5時45分から1号館115教室で開催された。

まず、設立総会に先立って設立準備会が開催され、そこで検討された次の「設立趣旨」が総会で採択された。「弘前学院の卒業生で幼稚園・学校の現場の教職員、かつて教職に携わった方を会員とする。

「弘前学院出身者教職員の会」の設立総会が、7月15日(土)午後5時45分から1号館115教室で開催された。

生物学、農学基礎、臨床医学、薬学、歯学など9分野があります。健康・生活科学分野には、体力医学、公衆衛生、看護、理学、福祉など専門家で構成され、全体で約45名が含まれています。青森県の大学や研究所から任命された人はいませんでした。任期は、平成23年9月30日までの5年間で、大いに、日本の科学発展のため、そして青森県のその分野、弘前学院大学のために努力されるように期待するものです。

### ぜひ文化研究所の講演会へ

地域文化の学術的な掘り起こしに寄与し続けていきたいと考えています。

本年度は、講演会3回と研究会1回の開催を企画し、すでに講演会3回は、おかげさまで無事終了いたしました。この記事では、地域総合文化研究所の講演会と研究会の趣旨と意義についてと本年度第一回・第二回の講演会についての報告を簡単にさせていただきます。

本研究所の講演会・研究会は、同研究所の『地域学』(年1回)です。四巻まで発行の出版と連動させた活動となっております。双方の活動は、本学および学外の地方文化に関する研究を、津軽の人々を中心に全国にまで発信していくことを目的にしています。

講演会は、原則として学外の研究者を招き、研究会は学内の教員によって行われていきます。学術研究の高度な水準を維持しつつ、わかりやすい講演会・研究会を目指しています。また、これらの会では、質疑応答を大切に、三十分と決めています。延長されることが多くありません。

『地域学』は「津軽地区で初めて地域学という思想を鮮明に打ち出した機関誌である」(弘前ペンクラブ事務局長・竹森茂裕氏)と評されたように、貴重な

### 文学散歩2006

日本語・日本文学 教授 井上 諭一

日本語・日本文学の学生・卒業生・教員で組織する「弘前学院大学国語国文学会」は、年間2回の「大会」や学会誌「弘学大語文」の発行など、クリエイティブな活動を精力的かつ継続的に進めています。

そのような活動の一環として、例年、年一回を目安として文学作品や作家にゆかりの地を実際に訪れ、作家や作品、ひいては地域の文化や歴史に関する理解をさらに深めようとす



このように内容からすると「現地ツアー」とか「実地

現在のよう講演会・研究会と機関誌『地域学』の発行は、本研究所・所長笹森建英の提案で始められたもので、もちろん、決して思いどきで始められたものではなく、所長が何十年にも渡って津軽を中心とした地道な研究・芸術活動を続けてきたことと、これに増して、彼とこの地域で活動する研究者・芸術家・活動家・公務員・マスコミ関係者等、様々な人々や組織との協働の積み重ねがその支えとなつていきます。

さて、本年度第一回の講演会は「青森県における看護師養成の歴史」を共同テーマとして、青森県立保健大学大学院教授・大串靖子氏と本学看護学部教授・木村紀美氏により開催されました。大串氏は「看護教育制度の変遷をサブテーマとして、木村氏は「津軽地方の看護教育史」をサブテーマとして講演されました。

お二人によれば、青森県のみならず、地域の看護教育史は研究がほとんどなされておらず、開拓の分野であるということでした。まだまだ男性中心の歴史観にとらわれやすい環境の証左

検証」と言うのが普通かもしれませんが、以前から日本語・日本文学の領域では、こういうことを「文学散歩」と呼ぶ習慣です。本学でもそれに従って呼称しています。

実際には、学生の皆さんで組織する国語国文学会の委員会が計画立案・実行の中心となり、大方は初秋に行っています。過去には、太宰治の生家「斜陽館」(五所川原市金木)や葛西善蔵(文学碑(平川市碓ヶ関三笠山))などを見学したり、青森県近代文学館や青森県立郷土館あるいは三沢の寺山修司記念館などを訪れたりしています。

今年度は青森市の三内丸山遺跡とその周辺、ならびに青森県立近代美術館の2カ所を同日内に見て回るという計画を立てました。大学を貸し切りバスで朝9時に出発し、午前中に三内丸山遺跡を見て、昼食をとつ

今年度は青森市の三内丸山遺跡とその周辺、ならびに青森県立近代美術館の2カ所を同日内に見て回るという計画を立てました。大学を貸し切りバスで朝9時に出発し、午前中に三内丸山遺跡を見て、昼食をとつ



講演中の鹿島英一先生

第二回の講演会は、「説話(ハナシ)の来道—北方民族と『鼠の嫁入り』」をテーマとして、前國學院大学教授で現本学大学院文学研究科講師・野村純一氏により開催されました。私たちに伝えられてきた説話が悠久の時間の中で世界的な広がりをもち、それぞれの民族や地域の生活と特性を吸収しながら伝承されてきたことを興味深い資料を示しながらお話ししていただきました。

弘前学院関係者の皆様、是非一度地域総合文化研究所の講演会・研究会までおいで下さい。詳しくは本学のホームページにも紹介しております。また、地元の新聞社にも協力をいただき、毎回講演会・研究会のお知らせをしていただいております。

(地域総合文化研究所 主事 西東克介)

たあと午後には青森県立近代美術館に回り、15ヶ所スケッチする。計画をペーパーだけで見ると時間的に無理があるようにも思いますが、学生の皆さんに熱心な企画立案と、精密な進行調整により、大変スムーズに濃密な勉強をすることができました。特に新設間もない近代美術館は、既に多く指摘されているように建物それ自体がアートでもあり、都市空間を思わせる内部の迷路性にも相俟って、大変にモダン(レトロモダン)な展示が印象的でした。

### 国際交流から

国際交流委員長 笹森 建英

シエンダア大学への語学研修を希望する学生の募集です。前回の「弘学時報24号」で、どんなに有意義で、楽しく、廉価な外国研修であったかについて書きました。お世話をしていただいたアッシュマン先生一家が7月にキャンパスを訪問し、交わりが親密で暖かいものであることを再確認しました。



写真は看護学のナンシー・ポーリング先生です。看護学部は少し離れた場所に隣接するのですが、校舎は清楚で隣接する病棟が日常的な学習・研究の場になっていました。病院のツアを丁寧にもらい、看護法が日本と随分ちがっているのに驚きました。音楽療法の有名人先生も、音楽学部にはいます。先生方の交流、大学院への留学など、夢を膨らませていきます。

写真は看護学のナンシー・ポーリング先生です。看護学部は少し離れた場所に隣接するのですが、校舎は清楚で隣接する病棟が日常的な学習・研究の場になっていました。病院のツアを丁寧にもらい、看護法が日本と随分ちがっているのに驚きました。音楽療法の有名人先生も、音楽学部にはいます。先生方の交流、大学院への留学など、夢を膨らませていきます。

### 英語・英米文学会主催の講演会について

英語・英米文学会長 佐藤 和博



講演中の鹿島英一先生

本学英語・英米文学会主催の講演会が学園祭期間中の10月8日、1時から320番教室で開催されました。今回は九州大学教授、鹿島英一先生をお招きしました。先生は現在、九州大学留学生センターに所属し、世界各国からの留学生の対応に多忙な毎日を送っていらつしやいます。この日は「オセアニア・アジアへの短期留学」と題して、講演の中心になったのは、(1)オセアニア・アジア地域

具体的手順について、(2)について。例えば、マカオ・香港・台湾に日本語日本語化ブームが見られ、日本の情報に詳しい若い人をハリー族と呼ぶこと。また、インドネシアという国には地方差があり、極めて親的な地方もあれば、そ

### 地区別父母懇談会報告

父母と教職員の会主催の平成十八年度地区別父母懇談会が九月、十月の土曜日、日曜日、祝日を利用して仙台・盛岡・弘前・青森の四会場で開催され、無事終了しました。事務局は懇談会に先立って、父母の方々に教員及び就職課に対する質問事項を出していたいただき、当日の対応に備えました。

懇談会の中では、アパートや下宿生活をしている学生の父母の方々は、特に普段の生活ぶりに真剣に耳を傾けているようでした。また、成績等の質問の他に、前期の成績配布後早めに父母懇談会の日程を設けてほしいとの意見もありましたが、大学全体の行事予定の中で、大幅な変更は難しいかと思われま

さらに、就職情報等に対する質問も大変多く、回復傾向にあるといながらも実感はわかず情報が少ないという切実な声もありました。それについては昨年から就職委員会主催で実施している学内就職セミナーを、今年度は、来年一月に企業研究の一環として本学体育館で開催を

うでない地方もまたあること。さらに、中国の、いわゆる内地には6000人も日本人留学生がいるけれども、少数民族地域には、1人いるか、いないかという不均衡があること。また、韓国、シンガポールには、受験地獄があつて、放課後も図書館で勉強したり塾へかよったりするという話。また、ニュージーランドでは、世界各国からやってくる短期留学生を受け入れることがビジネス化しており、いわば「ホームステイ産業」と呼べるほどで3人の留学生をホームステイさせれば充分な商売になる等。

最後に特に、若い人は、近くの外国、中でもアジアの事を知ることが重要であると熱を込めてお話ししていただきました。

最後に特に、若い人は、近くの外国、中でもアジアの事を知ることが重要であると熱を込めてお話ししていただきました。当日は悪天候ということもあり、参加者は少なかつたのですが、予定していた講演時間を大幅に超えるお話を、参加した方々には充分満足していただけたのではないかと思います。

詫び申し上げます。また、事前準備及び当日対応していただいた教職員の方々に御礼申し上げます。父母及び大学側教職員の出席者数は、次の通りです。

- 仙台会場 九月二十四日(日) 父母 五名
- 盛岡会場 九月三十日(土) 父母 四名
- 弘前会場 十月九日(月) 父母 六名
- 青森会場 十月十四日(土) 父母 七名

文化庁 笹森 建英先生 「地域文化功労者」として表彰される



文化庁 笹森 建英先生 「地域文化功労者」として表彰される

文化庁が全国芸術文化振興文化財保護に尽力する団体や個人を表彰する今年度の「地域文化功労者表彰」に、個人として、本県から唯一選ばれた笹森先生は、一九七六年に「津軽筆曲田流の研究」を共著で出版、そのレコード出版で文化庁芸術優秀賞を受賞。また津軽のイタコや県技芸認定の根笹派大音流流錦風流尺八、津軽筆曲田流の

調査を行い、本県の伝統音楽・民俗芸能分野の文化財保護に尽くしたことが評価され、受賞となりました。

2006年度 後期行事日程

文責：島山篤(事務局)

10月	後期開講
11月	スポーツ大会
12月	特別礼拝・文学部3年リトリート
12月	クリスマス礼拝
12月	クリスマス音楽の夕べ(冬季休業)
12/25	1/13 授業開始(1/15)
1/2	後期試験(2/2/3)
1月	卒業式(3/17)
2月	卒業式(3/17)
3月	卒業式(3/17)



# 学園祭を終えて

学祭実行委員 後藤 真央

今年度の学祭は、今年のも月からすでに実行委員会が水面下で活動してしました。それを聞いた人はきつと、なぜそんなに早くから始めなければならぬのかという疑問を抱くことでしょう。この答えはただ一つ、弘学祭を人気あふれる大学祭に発展させたいと願うからです。私が思い描く学祭を、一緒に具体的にイメージしてみてください。……門をくぐると出店が立ち並び、活気があり人が大勢行き交う。目をつむると、音楽や人の笑い声、さらに出店の売り子が声を張り上げて客引きをする声なんかがザワザワと聞こえる。そうしていると、



出店から食欲をそそるのにおいが出てきて、おもわず二度目の昼食をとってしまう。ハッと笑い出したようにパンフレットを覗くと、興味をそそるイベントが紹介されている。そして帰るときには自分自身の思い出を、何か一つ増

やしている。……どうでしょう？ イメージできたでしょうか？ 私なりに思い描く学祭とほかの実行委員が思い描いて

めていた学祭を私たちの手で復活、いや例年以上のものにするために、目玉となるイベントが必要でした。だから普段接する機会のない芸能人を学院大に呼んでみようという試みなのです。私たちの試みは、当日のどしや降りなど多くのトラブルにみまわれたものの、無事成功させることができた。当日は、降りし

きた雨の中、500人近くの人がお笑いライブを見に来てくださり、外の寒さとは対照的に、体育館内は大きな笑いひと段落ついでから、その光景を目にしたときは、なんだか胸がいっぱいになりました。お笑いライブの他にも、各サークルがイントロクイズやたたいてかぶつてじゃんけんポンで競い合うサークル対抗ミニゲーム、バンドライブ、豪華賞品がもらえるビンゴ大会、弘大よさこい、30発の打ち上げ花火など企画に工夫を凝らしました。特に最終日の打ち上げ花火は心に残っています。昨年同様看護学部の駐

入試センター日より 2006年度オープンキャンパスを終えて  
今年度オープンキャンパスが7月1日(土)、9月2日(土)に開催されました。参加者数は総計2,277名(内保護者40名)と大盛況に終わることができました。教職員関係各位に心からお礼感謝申し上げます。中味として、各学科別の模擬講義では、熱心に耳を傾けており、高校とは違った本学ならではの講義を体験することのできたようです。在学生との懇談では、本学のサークルや学生生活、講義内容について、教員による個別相談コーナーでは奨学金や資格、留学についての質問が多く、本学教員と在学生が質問に対して丁寧に説明をし、参加者の本学に対する理解が深まったと思えます。参加者のアンケートからも、「ぜひ入学したい」と「楽しかった」、「心が新・親・深く今つながら、心の絆、あなたの大切な人は誰ですか?」という独自の活動テーマを掲げ、日頃からボランティア活動等々で知り合った福祉施設等の利用者との多彩な催しが行なわれています。学生個々の自主的な日々のボランティア活動繋がりに「絆(きずな)」を深め、新たな「出会い」を創り出す場として、地元の放送局(RAB放送)も「本学が地域に貢献する」取り組み(本学の目指す「臨床実践力」を育む教育)と話題にされました。

た、「ながら」やかな雰囲気でも良かった。など良い印象を受けているようで、今回のオープンキャンパスを通じて文学部、社会福祉学部、看護学部の魅力を体感させることができたと思われま

た、「ながら」やかな雰囲気でも良かった。など良い印象を受けているようで、今回のオープンキャンパスを通じて文学部、社会福祉学部、看護学部の魅力を体感させることができたと思われま

いたものは少し違うかもしれません。しかし、参加してくださった人々へ何かを与えられる学祭にしたいという点は共通しています。

そのために今年はビックイイベントを計画しました。それは、インスタントジョンソンお笑いライブです。低迷し始

れていたが、車から降りて、こちらに歩いて来る姿を見て直感したのである。

グレースに入ったたぐさんの野鳥が陳列されている。ハドソンが収集したアルゼンチンの野鳥である。

その珍しさ、その色彩の鮮やかさ、何よりもハドソンの思いががいっぱ詰まった複製に我を忘れて見つめた。それから念入りに、ビデオ撮影に取りかかった。

私にとって大学生活は「机の上」だけでなく、「教室外」で学ぶことが多かったと感じます。元来、面倒くさがりやであった私はボランティアやゼミの活動、学内の催しに積極的ではなく、「友人の誘い

私にとって大学生活は「机の上」だけでなく、「教室外」で学ぶことが多かったと感じます。元来、面倒くさがりやであった私はボランティアやゼミの活動、学内の催しに積極的ではなく、「友人の誘い

## 談話室

### ヴィオレッタ先生のこと

文学部 佐藤 幸正

ヴィオレッタ先生に始めてお会いしたのは一九九六年のことであった。ブエノスアイレスの宿泊先に訪ねて来てくださったのである。入口でお待ち立っていて、すぐ先生だとわかった。アルゼンチン生まれの先生が八十八歳になら



滞在中のある日のこと、先生は首都から南方に位置するプラタ博物館に案内して下さった。南米随一といわれるだけあって、白亜の堂々とした建築物であった。この建物のなかに、ハドソン・コーナーがあることを知っていたので、入館すると一目散に、そのコーナーを探し回った。やっとの思いで探し当てると、そこには大きなガラス

車で寝ころんで、実行委員のメンバーと歓声を上げながら見ました。自分の真上に広がる花火は、普段見るものよりもずっと大きく、綺麗に見えました。私はいくつになっても、秋の澄んだ夜空を見上げるたびに、この花火を思い出してしまいます。

現地紙へラルドは、ヴィオレッタ女史が二〇〇三年八月三日に死亡したことを報じた。「私が死んだら、父と祖母のそばで眠る」と言っていた言葉

時間を有限、努力は無限 二〇〇四年三月 社会福祉学部卒業 東谷 康生

「24時間テレビ」チャリティ募金活動in弘前学院大学

「絆」に纏わるポエムの朗読

募金コーナーなどでした。また、地方放送出演(本学の取り組み紹介)、全国放送(エンディングテーマソング全国リリース)にも、本学学生が生出演しています。

募金コーナーなどでした。また、地方放送出演(本学の取り組み紹介)、全国放送(エンディングテーマソング全国リリース)にも、本学学生が生出演しています。

